

公成建設株式会社 VOL.447

安全衛生ニュース

発行
公成建設(株)安全衛生
協力会事務局
編集
安全衛生委員会
事務局

◆新入社員を労働災害から守ろう◆

営業部 営業担当部長 村上 健一

当社では今年も、建築部に3名、土木部に2名の仲間（新入社員）が増えました。新入社員の労働災害は、経験不足による危険の認識不足、安全知識・ルールへの未習熟、そして「教えられていない」「隠したい」という心理が主な原因と言われています。まさにこの4月～7月は、慣れない環境での作業操作ミスや、ルールを無視した不安全な行動が原因で労災が発生しやすい傾向にあります。新入社員の労災は、以下のような原因が複合的に絡み合って発生します。



新入社員の労災を引き起こす主な原因

- **危険の認識不足（未熟練）**：何が「危険」なのか（危険予知）が分からない。
- **安全教育・ルールの未徹底**：ルールを知らない、または守り方を知らない。
- **ヒューマンエラー（不安全な行動）**：不慣れによる操作ミスや、手順を省略する「近道行動」。
- **心理的要因**：「早く作業を覚えたい」という焦りや、周りに聞けない環境。
- **環境と管理の不備**：先輩と同じペースを求められる負荷。

新入社員は、危険体験が少ないのと、便利さに慣れすぎていて危険に対する感性が低いケースも指摘されています。これらを防ぐため、4月の入社時期に、現場の「危険の芽」を教える「雇入れ時安全衛生教育」の徹底が必須となります。当社においても新入社員オリエンテーション時間割を作成し、「機材センター内実習」、「測量実習」、「土木・建築の各部門別社内研修会」、「施工現場見学会」、「京都府建設業協会で開催される新入社員研修会」の実施を予定しています。

終了後、新入社員は各現場に配属となります。6月～7月になると、現場環境への慣れや疲労の蓄積による注意力の低下により、作業中のリスクを「大丈夫だろう」と過小評価（危険軽視）することで発生する主なヒューマ

京都市下京区五条通西洞院西入ル小柳町518 TEL.075-365-8303 FAX.075-365-8532

ンエラー要因は、労働災害や事故に直接つながるため、以下のような対策が有効と言われています。

危険の認識不足が引き起こす要因と対策

- **危険の過小評価・慣れ**：「これまで大丈夫だった」と安全手順を省く行為。指差呼称などで意識を高めることが重要。
- **知識・経験不足**：危険そのものを知らないケース。安全衛生教育や過去の事例共有が効果的。
- **注意力の低下**：疲労、ストレス、悩み事などで周囲の状況を見落とす状態。休憩の確保と、相談しやすい環境作りが必要。
- **安全管理の形骸化**：マニュアルの形骸化や「省略という人間特性」によるルール違反。小さなヒヤリハットを見逃さずに職場で対策を共有する事が重要です。新入社員の労働災害は、新入社員自身のヒューマンエラーを生じさせない対策を講じるだけでは、事故は無くなりません。その上流にも目を向ける必要があると考えます。事故発生までのメカニズムを説明するモデルとして「スイスチーズモデル」と呼ばれる考え方があります。事故を阻止する複数の防護層があり、それぞれの防護層の穴を全てすり抜けると事故は発生するという考え方がです。

物理的防護層（本質安全）：危険エリアへの進入や、可動部への接触を防ぐ防護層

工学的防護層（機能安全）：監視装置や防護装置などの付加機能によりリスク低減する防護層

規則・手順防護層：作業手順書等の現場作業のソフト面による防護層

現場作業員防護層：現場作業員自身の判断や行動による防護層

新入社員のヒューマンエラーは、1つの防護層の突破に過ぎません。その前の防護層でなぜ防げなかったのかを遡って考える必要がある。つまり、新入社員がヒューマンエラーをしないように啓発するだけではなく、どうしてそれより前の防護層をすり抜けたのかを検証し、再発防止策を講じて「大切な大切な大切な大切な新入社員」を労働災害から守りましょう。ご安全に！

3月度合同パトロール

3月12日(木)13:00より
協力会：ナガタ工業(株)
安衛委員：稲垣・木本・匹田・寺田・松永
以上6名で実施しました。

『寸評』安全衛生委員会

3月度の合同パトロールは、土木現場「新名神城陽第一高架橋（下部工）拡幅工事」を、安全衛生協力会1名、安全衛生委員会5名の計6名により実施しました。

当日は、寒の戻りで突風の吹く肌寒い中、『墜落・転落災害の防止、重機災害の防止』を主眼に、安全パトロールを行いました。

◆新名神城陽第一高架橋（下部工）拡幅工事

当工事は、昨年10月から3回目の合同パトロールです。中岡所長より概要・進捗状況説明を受け、重点目標の「墜落・転落災害の防止、重機災害の防止」を主眼に安全点検を行いました。当日の作業は、P5橋脚で仮囲いの盛替え、D調整池で洪水吐の鉄筋組立と池の掘削、JCTのAランプで地覆工、Hランプで盛土工等で職員を含め48名でした。

工事場所：城陽市富野北ノ芝～水主大將軍

工期：令和6年12月1日～11年5月8日（4年6ヶ月）

発注者：西日本高速道路(株) 関西支社

工事概要：橋脚拡幅工(P1～P6)	6基
鋼管ソイルセメント杭φ1200	86本
切盛土工	90,000m ³
調整池	5カ所

出来高：17.1%（2/28現在）

安全成績：労働延時間=85,304時間

休業災害0件・不休災害0件。（2/28現在）

＜良好な事項＞

① 立入禁止エリア明示、安全通路の確保

② 各所資機材の整理整頓

＜改善・点検を要する事項＞

① 洪水吐内部への足場

② RI測定時の職員の防護、明示

③ 防塵対策

■講評では、全体的には大変各所とも整理整頓は良好でしたが、突風による飛散防止、防塵対策の強化とこれから国道南側境界のL型ブロック据付、P6橋脚鋼管杭が始まるので新たな安全対策をお願いしました。

■中岡所長からは、「工期も1年3ヶ月が経ちましたが、まだまだ長丁場です。5月より国道の切替もあり、より一層の安全対策も検討しなければいけないと考えます。」とのコメントでした。



P5橋脚



D調整池



Aランプ

【新名神城陽第一高架橋（下部工）拡幅工事】

重点実施例

『令和7年度京都地区保全工事(その1)』

土木部 高速維持G 工事主任 小紫 雅司

本工事は、名神高速道路・京滋バイパス・第二京阪道路・京都縦貫自動車道・新名神高速道路・京奈和自動車道において、清掃作業、植栽作業、雪氷対策作業、緊急作業、交通事故復旧作業、その他補修作業を行っています。日々作業箇所が変わる多種多様な作業内容になっており、その時々安全対策が必要となっています。

この中で植栽作業について紹介します。植栽作業は、本線内・本線外作業があり本線内作業では路肩規制内での作業が主になります。幅2m位の中での作業になり危険と隣り合わせで作業を行っています。高速道路を利用されるお客様に葉っぱ一枚飛ばさないよう神経を使い、飛び石等の事故が無いよう飛散防止ネット、カルマー、トリマーを使用し対策を行っています。また、ピンクリボンでケーブルを明示し切断がないようケーブル周り1mは手刈りで作業します。

これからも安全作業に努め無事故で終われるよう日々精進してまいります。ご安全に。



植栽作業



【令和7年度京都地区保全工事(その1)】

現場 ニュース

『由良川志高地区河道掘削工事』

土木部 土木G 工事主任 菊田 勝也

本工事は、由良川の治水対策として河床土砂をバックホウ浚渫船により浚渫する工事であり、併せて浚渫土の揚土および船舶の停泊を目的とした矢板護岸による揚土場の造成を行いました。浚渫量は約7,200 m³、揚土場は約12,000 m³の土砂を掘削・搬出した後、延長80mのタイロッド式矢板護岸を施工するもので、施工期間は約8か月を要しました。浚渫作業ではバックホウ浚渫船1隻、土運船2隻、曳船2隻の計5隻の船舶を使用し施工を行いました。バックホウ浚渫船は延長20mのフロート台船に1.4 m³級バックホウを搭載したものを使用し、土運船は120 m³積載可能な延長30mの船舶を使用しています。浚渫土は高含水で液状化しているため固化材を攪拌し搬出しました。揚土場では1.4 m³級バックホウ1台、0.7 m³級バックホウ2台を配置し、日々4台の重機と約20名の作業員により施工を行いました。河川上での船舶作業と揚土場での陸上作業が同時に進む施工条件かつ、揚土場では重機が密に稼働する作業環境でしたが、作業範囲の明確化や安全施設の設置、作業前打合せを徹底することで接触災害なく施工を終えることができました。ただし、片付け作業の最終段階で船舶の帰港時に由良川河口において座礁を起こしたため大変悔いが残っています。

今後は、工事期間だけでなく準備から片付けまでを一連の作業として捉え、より安全に配慮した現場づくりを行い、無事故・無災害の施工を目指していきます。

ご安全に！



浚渫船による浚渫



揚土場での攪拌

【由良川志高地区河道掘削工事】

安 衛 コ ラ ム

『一年を振り返って』

土木部 高速維持G 工事係 北川 銀次郎

高速維持グループの北川です。

この一年間を通して多くのことを学び、自分自身の成長を感じることができました。

現場に出たばかりの頃は分からないことが多く、先輩方の指示通りに動くことで精一杯でした。作業の流れや現場ごとのルールを覚えるのに苦労し、思うように動けないこともありました。

しかし、日々の現場経験を重ねる中で少しずつできることが増え、名神集中工事では舗装担当を任せられました。施工場所や侵入ルートを自分で確認し、協力会社の方々がスムーズに作業できるよう考えながら行動しました。元請けや協力会社の皆様としっかり連携を取りながら現場を進めることができたことは、大きな自信につながりました。

一方で、現場では常に状況が変化するため、判断に迷うことや反省すべき点もありました。そのたびに先輩方からご指導をいただき、自分の課題を見つめ直すことができました。改めて、周囲の支えがあってこそ今の自分があると感じています

今後も安全を最優先に考え、基本を大切にしながら、一つ一つの仕事に責任を持って取り組んでいきます。そして、周囲から信頼される存在になれるよう、知識と技術の向上に努めます。

ご安全に！

重 点 施 策

『花粉症への対処法』

春を感じられる日も多くなり、多くの方にとって厄介な天敵「花粉」が猛威を振るうシーズンとなりました。くしゃみ、鼻水、鼻づまり、目のかゆみ、充血などが生

じ、集中力の低下やよく眠れないなど、勉強や仕事、家事に大きな影響を及ぼしている方も多いのではないのでしょうか。今日は我々でもできる花粉症の対処法に触れたいと思います。

【対処法】

1. 鼻のケア

(1) 鼻の洗浄

鼻に入り込んだ花粉やホコリなどは、洗い流すのが効果的です。ただし、水道水は塩素などを含んでいて鼻の粘膜を傷つけてしまうので、体液に近い組成の市販の生理食塩水を利用してください。

(2) 鼻の粘膜の保護

繰り返して鼻をかむと鼻が荒れますので、荒れてしまったら白色ワセリンなどを塗ってください。保湿ティッシュペーパーで鼻をかむことも有効です。

(3) 室内の加湿

鼻腔に炎症があると粘膜機能が低下するので、室内を加湿して水分を補ってください。空気が乾燥しているときはマスクが有効です。

(4) マスク

マスクは、花粉の飛散の多いときには吸い込む花粉をおよそ3分の1から6分の1に減らし、鼻の症状を少なくさせる効果が期待されています。また、花粉症でない人も、花粉を吸い込む量を少なくすることで、新たに花粉症になる可能性を低くすることが期待されています。ただし、風が強いとマスクをしていても鼻の中に入る花粉は増えます。マスクをしていても完全防備にはならないので過信は禁物です。

2. 目のケア

(1) 目の洗浄

花粉やホコリなどの異物は、洗い流すのが効果的です。ただし、目は表面が涙で守られており、水道水で目を洗うことで細胞が傷つくことがあり、また涙も洗い流してしまうので、市販の人工涙液を利用してください。

(2) 目の疲労の回避

長時間にわたりテレビを見続けることやパソコンで作業を続けることは目に負担をかけてドライアイなどの原因になるだけでなく、めまいや頭痛、睡眠障害などの心身に健康障害があらわれるVDT症候群 (visual display terminal syndrome) を招いてしまいます。目から画面(モニター)まで50cmくらい離すようにして、1時間見続けたら15分間程度の休憩を設けてストレッチなどで身体

をほぐすようにしましょう。また、目に炎症があるときはそれだけで目に負担をかけるので、コンタクトレンズの使用を控えてメガネをかけ、意識的に目を休めてください。目に限りませんが、規則的な生活を送って十分な睡眠とバランスのよい食事を心がけてください。

営業部

◆事務局からのお知らせ◆



■ 春の全国交通安全運動

期 間：4月6日～4月15日



■ 安全衛生協会・委員会合同パトロールの予定

日 時：令和8年4月9日(木) 13:00～15:30

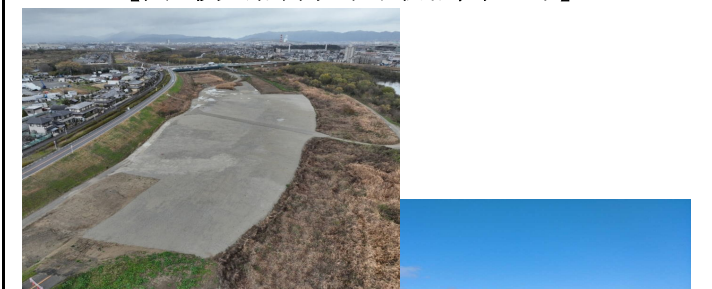
場 所：万博イタリアパビリオン解体工事

協力会：未 定

■ 工事完成 ご苦労様でした。



【桂川横大路下島地区堤防強化他工事】



【桂川大下津地区上流他河道掘削工事】